

21st Oka Symposium

下記の通り第 21 回岡シンポジウムを開催致しますのでご案内申し上げます。今年も対面と Zoom によるオンライン配信併用の開催となります。参加を希望される方は、【12 月 17 日 (日) 17:00】までに、[参加申込フォーム](#)から登録をお願い致します。その際、対面での参加かオンラインでの参加かをお知らせ下さい。対面での参加人数によっては、会場を変更する可能性がありますことご了承下さい。

篠田正人 松澤淳一 森藤紳哉 吉川謙一

記

日時：2023 年 12 月 23 日 (土)～12 月 24 日 (日)

場所：奈良市北魚屋西町 奈良女子大学理学部数学教室 新 B 棟 4 階 階段教室 B1406

開催形式：対面と Zoom によるオンライン配信併用

プログラム

12 月 23 日 (土)

13:30 - 15:30 高橋篤史 (大阪大学)

タイトル：完全例外列の数と Lyashko – Looijenga 写像の次数

アブストラクト：単純特異点に対して、Deligne は「distinguished basis の数」に関する漸化式を与え、Looijenga による予想、つまりこの数と Lyashko – Looijenga 写像と呼ばれる分岐集合の位相幾何学的情報を捉える写像の次数の一致、を示した。この背景にあるミラー対称性に触れつつ、アフィンカスプ「特異点」および単純楕円型特異点への一般化を解説する。

16:00 - 18:00 寺杉友秀 (法政大学)

タイトル：多重ゼータ値と混合モチーフ

アブストラクト：多重ゼータ値はゼータ関数の特殊値を一般化したものだが、コンツェビッチによる積分表示を用いると、代数多様体の周期積分としてとらえた方がよく理解できる。混合モチーフの理論とあいまって豊かな世界が繰り広げられていることを紹介する。

12 月 24 日 (日)

10:30 - 12:30 平地健吾 (東京大学)

タイトル：強擬凸領域の幾何学

アブストラクト：C. Fefferman は 1979 年に複素領域の解析と幾何の研究プログラム「放物型不変式論」を提案しました。ベルグマン核を主題として強擬凸領域の幾何学を研究することが当初の目標でしたが、その後、共形幾何学や理論物理との関連が注目され大きく発展しました。その過程での成功と (私の) 失敗について歴史に沿ってお話しします。

14:00 - 16:00 梅原雅顕 (東京工業大学)

タイトル：特異点をもつ曲面の幾何学

アブストラクト：曲面は、微分幾何学という分野の故郷といえる対象である。平均曲率一定あるいはガウス曲率一定の曲面を研究すると、自然に特異点に惹きつけられる。本講演では、特異点を込めて曲面を研究することの意義、講演者等の研究を含め重要と思われる定理の紹介および、講演者が現在取り組んでいる研究などについて解説する。

問い合わせ先：奈良市北魚屋西町 奈良女子大学岡数学研究所 松澤淳一

(Phone: 0742-20-3361, e-mail:matsuzawa@cc.nara-wu.ac.jp)